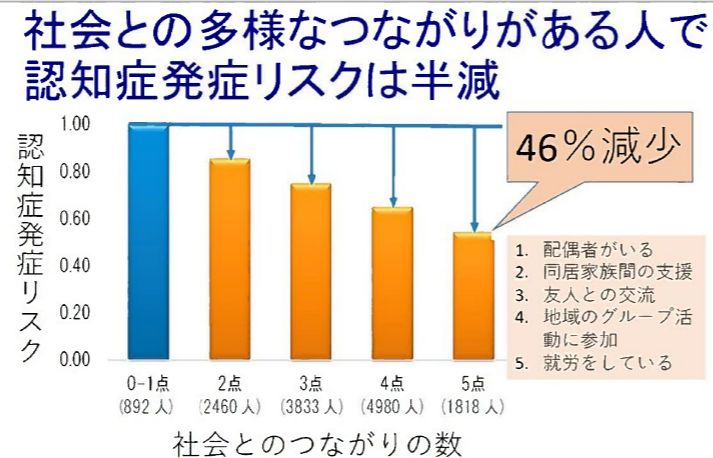
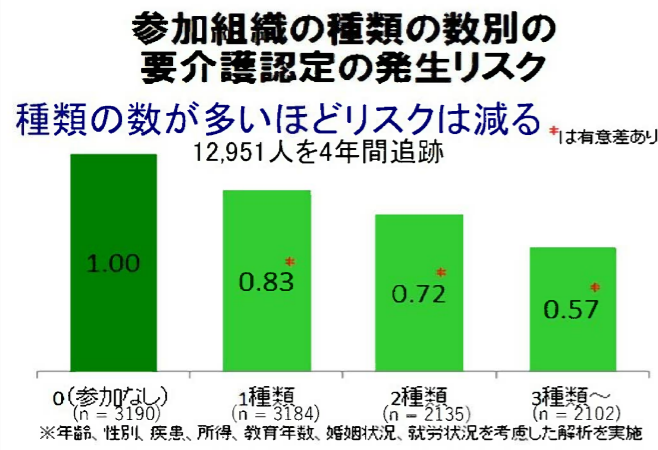


1 施策に取り組む背景

当施策においては、社会参加を「**高齢者が自分の意思で他のだれかとつながりを持つ行動**」と定義しています。

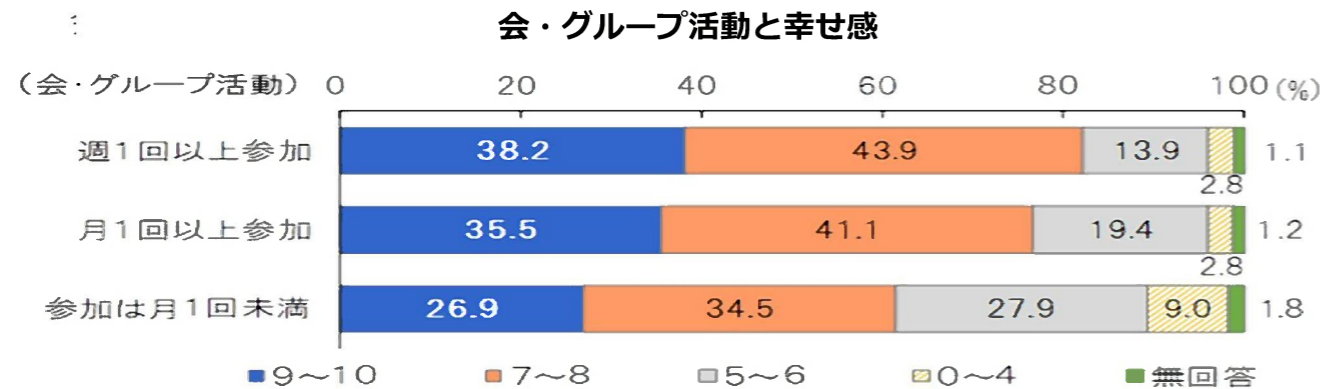
(1) 健康寿命の増進・幸せ感の向上

・スポーツの会や趣味の会等に参加すること(=社会参加)により、将来介護になるリスクや認知症を発症するリスクを低減する効果があることが、学術機関の研究から分かっています。



出所：JAGES「スポーツや趣味の会など複数の会に参加する人ほど要介護になりにくい 特にスポーツの会に参加している人の確率は34%低下」、「社会との多様なつながりがある人は認知症発症リスクが半減」

・「外出」、「知人等の会話」、「会・グループ活動」への参加により**幸せ感が向上**しています。



※とても幸せを10点、とても不幸を0点として回答(要介護認定に該当しない高齢者の回答結果)

出所：豊田市高齢者等実態調査(令和2年3月)

(2) 市民の現状

- ・本市の高齢者数は増加しており、要支援・要介護認定者もそれに伴い増加しています。
- ・要支援・要介護認定者の年齢構成を見ると、75歳以上の後期高齢者が約85%となっています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響(感染拡大防止、リスクの回避及びそれらに起因する人付き合いの希薄化)により、社会参加の頻度や参加者が低下しています。
- ・社会参加の場である集いの場(介護予防や健康づくりに通じる高齢者の交流の場)は市内に点在しています。

	高齢者数	後期高齢者数	認定者数	社会参加頻度	集いの場の数
井郷	3,754人	1,953人	543人	21.4%	44か所
梅坪台	2,380人	1,197人	383人	33.3%	47か所
小原	1,357人	718人	291人	51.5%	19か所
全市	100,915人	51,217人	15,533人	39.4%	1,765か所

出所：高齢者数・後期高齢者数は令和5年1月1日現在。認定者数は令和4年3月31日現在。社会参加頻度はスポーツ、自治区活動等に週1回以上参加している人の割合(高齢者等実態調査令和4年実施速報値)。集いの場の数は豊田市調べ(令和4年10月時点)。

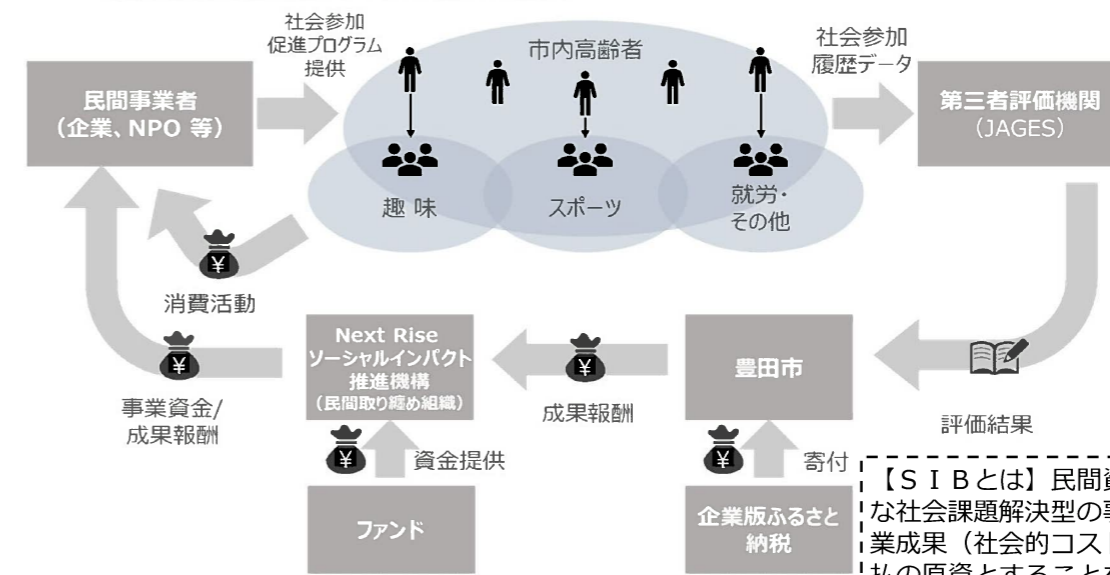
2 本市の現在の主な取組

機会や場をつくる取組

(1) ずっと元気!プロジェクト(SIBを活用した社会参加型介護予防事業)

趣味や運動、就労など、人との様々なつながりを得ることができる社会参加の機会や活動量を増やし、生きがいや楽しみを得られる取組を民間の創意工夫により提供する取組

SIBの仕組みを活用し、豊田市より委託を受けたNext Rise ソーシャルインパクト推進機構が、民間取り組み組織として本プロジェクトを推進



【SIBとは】民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果(社会的コストの効率化部分)を支払の原資とすることを旨とする。

(2) 集いの場へのコーディネート事業

機会や場につなげる取組

地域包括支援センター職員等が、集いの場の情報が掲載されたデジタルの地域資源マップを活用して、高齢者を集いの場にコーディネートする取組(令和4年度は地区を限定して実施)

【事業の流れ】

- ①集いの場の資源把握
- ②地域資源マップの構築
- ③集いの場へのコーディネート
- 集いの場への参加

【掲載情報】

- ・活動内容・場所・日時
- ・参加要件、年代、料金など

3 社会参加促進の課題

- ・高齢者を社会参加の機会や場につなげ、健康増進と幸せ感の向上につなげたいが、参加していない人が、一定数存在しています。
- ・高齢者等実態調査では、会・グループに参加しない理由として「興味がない」、「なんとなく参加していない」と回答する人が多くあり、社会参加の意義や必要な情報を適切に届けられていない可能性があります。実態の把握に至っていません。
- ・社会参加していない高齢者とは接触自体ができず、案内が難しい状況にあります。

各地域の実状・課題を踏まえて、社会参加の促進に向けた取組について意見をいただきたいです。